



Society 5.0に向けたリーディング・プロジェクト

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（令和元年度新規）

事業概要 これまでのスーパーグローバルハイスクール（SGH）事業などの取組の実績を活用

◆将来、イノベティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生へより高度な学びを提供する仕組みを構築するとともに、テーマ等を通じた高校生国際会議の開催等や高等学校のアドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成により、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアムにおける拠点校を目指す。

- ◆ 委託事業：委託先（都道府県市教育委員会、国立大学法人、学校法人：管理機関）
- ◆ 対象学校：国公立高等学校及び中高一貫教育校（研究開発の対象は小・中学校からも可能）
- ◆ 指定期間：原則3年（3年目の評価に応じて延長可）
- ◆ 拠点校数：10拠点（幹事管理機関1拠点）
- ◆ 支援金額：年間経費支援額は1000万円程度/件（研究開発内容や対象生徒など規模に応じて）

Society5.0に向けた人材育成

文理分断からの脱却 文理両方を学ぶ高大接続改革

大学教育の先取り履修を単位認定する取組なども含めた高度かつ多様な科目内容を、生徒個人の興味・関心・特性に応じて、履修可能とする高校生の学習プログラム/コースを「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム」として創設する。高校生6万人あたり1か所を目安に、各都道府県で国公立高等学校等を拠点校として整備し、すべての高校生が選抜を経てオンライン・オフラインで参加可能とする。これにより、国内外のトップ大学等にも入学できるようなグローバル・イノベティブ人材を育成する。また、海外からのハイレベル人材を受け入れ、日本人高校生と留学生と一緒に英語での授業・探究活動等を履修することとする。

「Society 5.0に向けた人材育成 ～社会が変わる、学びが変わる～」
文部科学大臣懇談会報告書（平成30年6月5日）より

取組要件

- ①事業実施にあたって、グローバルな社会課題研究としてテーマ（SDGs, 経済, 政治, 教育, 芸術等）を設定すること。
- ②国内外の大学, 企業, 国際機関等との協働によるイノベティブなグローバル人材育成に資する先進的なカリキュラムの研究開発・実践をすること。
- ③カリキュラムの研究開発・実践において, 外国語や文理両方の複数の教科を融合し, テーマに関連した「グローバル探究」等の新たな教科・科目を設定すること。また, その実施にあたっては, 外国人講師等を活用すること。
- ④大学教育の先取り履修を可能とする取組を事業終了までに行うこと。
- ⑤より高度な内容（例えば, 微分方程式, 線形代数, データマイニングや国際法等）を学びたい高校生が学習できる環境整備をすること。
- ⑥海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修等を, カリキュラムの中に体系的に位置づけて対象となる生徒が必ず経験するようにすること。
- ⑦文系・理系を問わず, 各教科をバランスよく学ぶ教育課程の編成をする（文系・理系のコース分け等を行わずに, または, コース分け等を行ったとしても, 数学科, 理科, 地理歴史科, 公民科等の教科を幅広く学べるようにする等）こと。
- ⑧国が実施するアジア高校生架け橋プロジェクトや海外の連携校等からリーダー, 架け橋となる人材を受け入れ, 日本人高校生と留学生と一緒に英語等での授業・探究活動等を履修するための学校体制を整備すること。
- ⑨国内外の大学, 企業, 国際機関等と協働し, 国内外の高等学校等との連携によるテーマに関連した高校生国際会議等を事業終了までに行うこと。

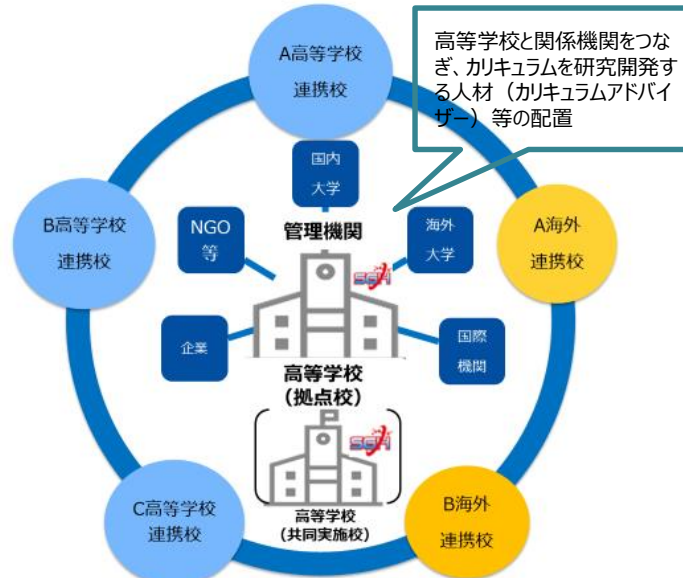


管理機関としての要件（例）

- 関係機関が協働等をしながら, 本事業を円滑に実施していくため, カリキュラムを研究開発する人材を管理機関に配置すること等

【世界高校生水会議平成30年7月】

アドバンスト・ラーニング・ネットワークのイメージ



国際会議の開催等により、プロジェクトが効果的に機能するよう高校間のネットワークを形成